

基本目標4

身近な学びと交流の あるまちをつくるために

一人一人が生涯にわたり、生きがいを持って学び、身近にスポーツを楽しむことができ、笑顔と交流の輪が広がるまちを目指します。

分野別の将来像と施策体系

出会いや交流の輪の中で、すべての世代が自分らしく学べるまち

施策 1 3 生涯学習のまちづくり

だれもが気軽にスポーツを楽しみ、元気になるまち

施策 1 4 市民スポーツの振興

4-1 出会う交流の輪の中で、すべての世代が自分らしく学べるまち

施策 1 3 生涯学習のまちづくり

目的	対象	市民
	意図	生涯にわたり学習し、学んだことをまちづくりに生かす

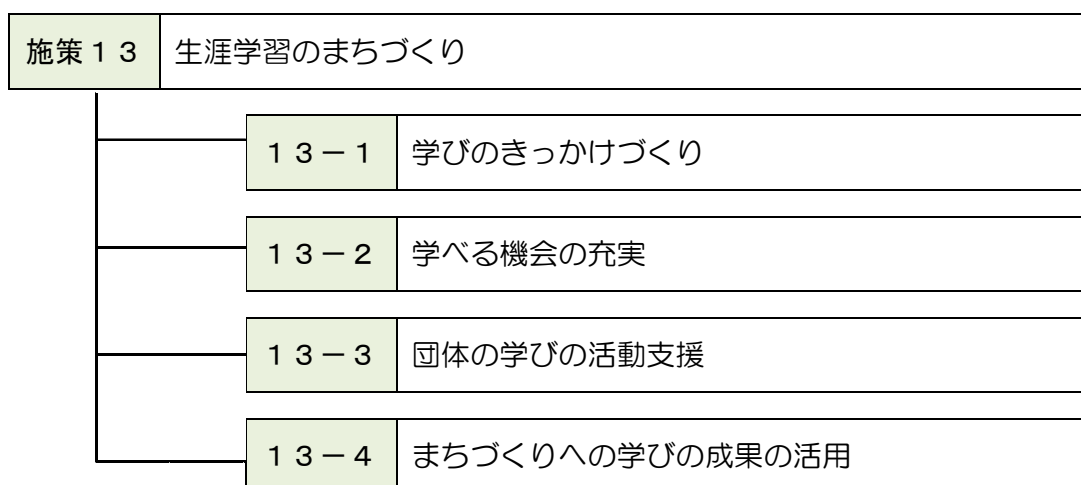
✚ 施策の方向

市民が生涯を通じて学習に取り組み、いきいきと豊かな人生をおくることができるよう支援するとともに、学んだ成果が市民同士の交流やまちづくりに生かされるよう、生涯学習を振興していきます。

✚ 後期基本計画における施策のポイント

- 市民一人一人がそれぞれの興味・関心や生活スタイルに応じた学習ができ、その成果をまちづくりに生かすことのできる環境づくり
- 多様な主体と連携した生涯学習事業の展開

✚ 基本的取組の体系



✦ 現状と課題

- 2013（平成25）年3月に策定した、調布市生涯学習振興プランに基づき、市民一人一人がそれぞれの興味・関心や生活スタイルに応じた学習ができ、その成果をまちづくりに生かすことのできるきっかけづくりや機会の提供などに市民団体や事業者等と協働して取り組むほか、生涯学習情報に関してニーズを的確に捉えた情報提供の工夫を行うことが重要です。また、2023（平成35）年度からの次期プラン策定を見据えた取組が必要です。
- 調布市は、多様な特色を持つ、市内・近隣の大学等と相互友好協力協定を締結し、文化、教育、学術、スポーツなどの分野で連携した取組を進めています。各大学等が開催する市民対象の事業を紹介するなど、各大学の魅力を市民に伝えるとともに、市民の生涯学習にもつながるよう、引き続き連携を強化していくことが重要です。
- 2017（平成29）年4月から運用を開始したちょうふ地域コミュニティサイト「ちょみっと」を活用し、市民の主体的な地域情報の発信を促進しています。
- 市内に11館ある図書館は、市民にとって最も身近な生涯学習の場として利用されています。今後は、読書や交流の場の機能に加え、地域の情報拠点としての機能を備えたものであることが一層期待されます。そのため、多様な媒体による資料や情報を選定、収集、整理、提供、保存し、市民の課題解決につながるよう、その充実に努めるとともに、学校図書館や他の生涯学習施設、ボランティア活動等と連携を図っていく必要があります。
- 公民館は、身近な学習を自らの生活に生かし、その成果を地域の活性化につなげていけるよう、地域の課題解決に向けた支援を行っていく必要があります。

✦ 基本的取組の内容

13-1 学びのきっかけづくり

◆多様なきっかけづくり

生涯学習の普及啓発をはじめ、生涯学習の拠点施設である文化会館たづくりや公民館・図書館・博物館等の社会教育施設での講座やイベント、生涯学習出前講座の実施や地域デビュー歓迎会*など、多様な学習のきっかけづくりに努めます。

※地域デビュー歓迎会

主にシニア世代を対象に、学習活動や地域活動に参加するきっかけづくりとして交流会や講演会などを実施している事業

◆学びに関する情報提供及び相談の実施

調布市生涯学習情報コーナーやちょうふ地域コミュニティサイト「ちょみっと」を活用し、市民が学習を始めたい時、学習成果を生かしたい時など、様々な場面に応じて適切な情報提供が行える環境を提供するとともに、民間機関が提供する学習情報も幅広く収集し、提供します。さらに、生涯学習情報コーナーのアウトリーチによる積極的な情報提供や、身近な場所での学習を通じた仲間づくり、学習成果のまちづくりへの生かし方などの相談を行います。

◆だれもが学びやすい環境づくり

年齢や国籍、障害の有無等にかかわらず、だれもが、いつでもどこでも学べる環境づくりを進めます。また、子ども・青少年には運動や様々な体験・交流を通じた学習機会、高齢者には生きがいや仲間づくりにつながるような学習機会など、年代やニーズに応じた機会の提供や支援を行います。

◆子どもの読書活動に関わる意識啓発

子どもの頃から読書の習慣を身につけ、読書を通じて豊かな心が育まれるよう、家庭や学校、地域などの大人も含めた意識啓発を行います。また、乳幼児がいるすべての家庭で読み聞かせが行われるよう、引き続きブックスタート事業に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
1年間に生涯学習をした人の割合	—	31.1% (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	学習活動及びまちづくりへの参加の促進	担当課	文化生涯学習課
事業の概要	市民一人一人の知識や経験を生かし、地域で活躍してもらえるよう、市民団体や大学、民間事業者等との協働により、地域デビュー歓迎会やサークル体験事業のほか、様々な生涯学習講座を実施し、各種活動への参加のきっかけづくりを行います。		

13-2 学べる機会の充実

◆自己実現につながる学びの推進

多様化する学習ニーズに対応するため、文化・芸術・スポーツに接する機会や学習機会の提供を行うほか、資格やキャリアアップ、起業、就労に関する学習のニーズに対応した職能教育につながる学習機会の提供などを行います。


◆暮らしや地域の再発見につながる公民館活動の推進

公民館において、防災・防犯、消費生活など、生活に必要な知識・技能に関する学習機会の提供を行うほか、市内の歴史・文化資源を活用した学習活動等を通じて、地域の魅力や課題を再認識できる事業の展開を図ります。また、学習の機会や活動場所の提供などの支援を通じて、市民相互の学び合いの活性化、地域の交流促進、活性化を図ります。

◆市民の読書・調査活動への支援

図書館がより効果的な学習活動の拠点として機能するよう、多様な媒体の資料や情報、課題解決につながる資料、映画・地域資料の選定、収集、整理、提供、保存を行います。また、だれもが読書や調査ができるよう、音訳、点訳、対面朗読、宅配などのサービスの充実を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
社会教育施設の満足度 (上段：図書館，下段： 公民館)	—	今年度実施の市民ア ンケートにより把握	

基本計画事業候補

事業名	市民の読書・調査活動への支援	担当課	図書館
事業の概要	図書館資料の選定，収集，整理，提供，保存や，調査研究への支援等を通じ，市民の読書・調査活動をはじめとした学習活動の充実につなげます。 また，だれもが読書や調査ができるよう，音訳，点訳，対面朗読，宅配などを実施します。		

13-3 団体の学びの活動支援


◆団体の自主的な活動への支援

生涯学習に関連する団体・グループの自主的な活動を維持・継続していくための支援やみんなの広場の活用により利用団体の交流を図るなどの支援を行います。

◆活動場所の確保及び提供

文化会館たづくりや公民館などの生涯学習・社会教育施設の管理や整備，市内の学習関連施設の有効活用など，市民が学習活動を行うことができる場所の確保を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
生涯学習情報コーナーの アクセス数	—	8万3,014 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	学習活動及びまちづくりへの参加の 促進	担当課	文化生涯学習課
事業の概要	市民一人一人の知識や経験を生かし，地域で活躍してもらえるよう，市民団体や大学，民間事業者等との協働により，地域デビュー歓迎会やサークル体験事業のほか，様々な生涯学習講座を実施し，各種活動への参加のきっかけづくりを行います。		

13-4 まちづくりへの学びの成果の活用

◆学びの成果をまちづくりに生かす機会の提供

調布市生涯学習振興プランに基づき、学習を通じた交流や仲間づくりを促進するため、市民の学習成果を発表する機会の提供に取り組むとともに、市民活動支援センター等において、生涯学習で身につけた知識・技能や経験を、ボランティア活動等に生かそうとする人と、地域人材を求めている人や場をつなげるコーディネートを行い、市民の活動を支援します。

また、調布市社会教育計画に基づき、公民館など社会教育施設を中心に地域の学習活動の企画や運営等に市民が参加し、意見交換や交流をすることで、地域人材の活用と地域の活性化を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合	14.3% (2014(平成26)年度)	15.3% (2017(平成29)年度)	↑

その他の主な事業

- ・地域に根差した公民館活動の推進



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、様々な生涯学習の機会に自主的に参加するとともに、学習を通じて得た知識や成果を、仲間づくりやまちづくりに生かすよう努めます。
- 事業者や教育機関は、市民の様々な学習ニーズに対応した多様な学習機会の提供に協力します。

《多様な主体との主な連携事例》

連携事例	連携のパートナー
趣味やボランティア活動を通じた地域デビュー事業	地域デビュー推進委員会
多様な特色を持つ大学等との文化、教育、学術、スポーツなどの分野での幅広い連携事業	相互友好協力協定締結大学

4-2 だれもが気軽にスポーツを楽しみ、元気になるまち

施策14 市民スポーツの振興

目的	対象	市民
	意図	だれもがスポーツに親しみ、楽しむことができる スポーツを通して交流がはぐくまれる だれもがスポーツを通して心身ともに健康になる

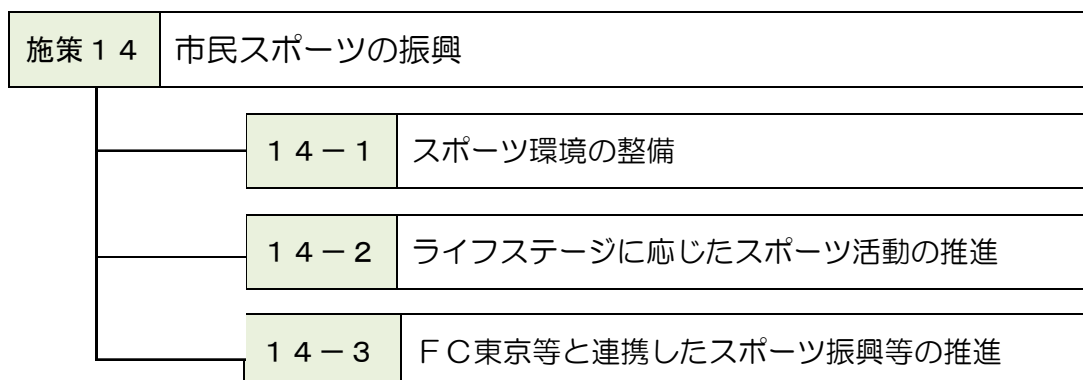
施策の方向

年齢や障害等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備します。
また、ラグビーワールドカップ2019™日本大会と東京2020大会を契機としたスポーツの振興を通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。

後期基本計画における施策のポイント

- 「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に基づく、だれもが、それぞれに応じた活動を通じ、スポーツ活動を楽しむことができる事業の推進
- 「2020年に向けた調布市アクション&レガシープラン」に基づく、スポーツを支えるボランティアや団体の確保・育成
- 子どもから高齢者までライフステージに応じて気軽にスポーツや健康づくりに参加できる機会の提供によるスポーツ活動の推進
- バリアフリーへの配慮や市民ニーズに沿った魅力ある施設など、安全で快適な市民のスポーツ環境の整備

基本的取組の体系



✚ 現状と課題

- 2011（平成23）年8月に国及び地方公共団体の責務及びスポーツに関する施策の基本となる事項等を定めたスポーツ基本法が施行されました。また、国は、2012（平成24）年3月に今後の日本のスポーツ施策の具体的な方向性を示す「スポーツ基本計画」を、2017（平成29）年3月には「第2期スポーツ基本計画」を策定しました。
- 東京都では、2018（平成30）年3月に東京都スポーツ推進総合計画を策定し、2020年とその先を見据え、「都民のスポーツ実施率70%を達成し、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、スポーツの力で人と都市が活性化する『スポーツ都市東京』の実現」を目指しています。
- 市内には、ラグビーワールドカップ2019™日本大会や東京2020大会の競技会場となる東京スタジアム（味の素スタジアム）や武蔵野の森総合スポーツプラザ等の大規模スポーツ施設をはじめ、各地域の身近なスポーツ施設が立地しており、多摩のスポーツの一大拠点として、多くの市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境が整備されています。
- 市のスポーツ施設は昭和50年代に竣工した施設が多く、公共建築物維持保全計画と公共施設等総合管理計画に基づき、市民が安全・安心に使用できるよう、老朽化した施設の修繕や改修を行いながら、引き続きバリアフリーへの配慮や市民ニーズに沿った魅力ある施設の提供に努めていく必要があります。
- 市が実施しているスポーツ関連事業等の参加者数は横ばいであり、引き続き、より多くの市民が日頃からスポーツに親しめるよう、障害者スポーツの普及・推進を含め、誰もがスポーツに参加できる機会の充実を図っていく必要があります。
- 市は、FC東京と連携して様々な取組を実施しており、2018（平成30）年にFC東京がクラブ創設20周年を迎えたことを契機に、引き続き、市民がスポーツに親しむ機会や交流をより充実させ、市民スポーツの振興、青少年の健全育成、地域振興等のまちづくりを協働で推進する必要があります。
- プロバスケットボールチーム「東京サンレーヴス」の選手による実技指導や、調布市をホームタウンとするアメリカンフットボールチーム「リクシルディアーズ」との交流イベント、まちなかラグビー、アスリート交流事業などを通じて、多様な主体と連携し、レガシーの創出につなげていく必要があります。

✚ 基本的取組の内容

14-1 スポーツ環境の整備

◆スポーツ施設の整備・改修

スポーツ施設をより効率的かつ効果的に維持管理・運営していくため、各施設の利用実態や老朽化の状況などを踏まえ、利用者の声や地域の特色を生かした安全で利便性の高いスポーツ施設の整備に努めます。

調布基地跡地における留保地（国有地）については、国との協議を継続し、「防災・スポーツ・レクリエーション機能を有する公園」としての活用について、引き続き検討を進めます。

◆スポーツ・レクリエーション情報の提供の充実

より多くの市民がスポーツ・レクリエーション活動に主体的に参加できるよう、様々な媒体

第3編 分野別計画

を活用してスポーツ施設やイベントに関する情報を分かりやすく魅力的に発信するなど、スポーツ・レクリエーション情報の提供の充実を図ります。

◆スポーツ指導者の育成

公益社団法人調布市体育協会等の関係団体との連携・協力のもと、アスリートを目指す活動や地域住民による主体的なスポーツ・レクリエーション活動などを支える指導者の育成と資質の向上を図ります。

◆次世代アスリートの発掘・支援

調布市体育協会と連携し、スポーツ教室や地域のスポーツ大会、報奨金制度の活用など、子どもたちのスポーツ活動を通じて、次世代を担う優秀なスポーツ選手の発掘・支援に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
体育施設の年間利用者数	93万1,927人 (2013(平成25)年度)	105万4,986人 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	スポーツ施設の整備	担当課	スポーツ振興課
事業の概要	スポーツ施設の計画的な維持保全・改修を行います。		

14-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

◆だれもがスポーツに参加できる機会の充実

それぞれの年齢や体力などに応じ、より多くの市民が生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう、市民体育祭や市民スポーツまつり、市民駅伝競走大会、リフレッシュ健康体操事業等を引き続き実施し、子どもから高齢者まで、各世代のニーズに合わせたスポーツ参加機会の充実を図ります。また、東京2020パラリンピック大会の開催を契機として、障害者スポーツの支援に取り組みます。

◆地域スポーツクラブ等の育成・推進

スポーツ・レクリエーション活動を通じて、地域コミュニティの活性化にもつながるよう、地域スポーツクラブを育成するとともに、市内の企業や大学などと連携・協力しながら、地域に根差したスポーツ・レクリエーション活動の充実に努めます。


◆地域における子どものスポーツ機会の確保

身近な地域で子どもがスポーツを楽しめる環境づくりを進めるため、スポーツ推進委員や調布市体育協会、総合型地域スポーツクラブ等と連携したスポーツ教室や地域のスポーツ大会の開催など、スポーツ参加の機会の確保を図ります。

◆ラグビーワールドカップ2019™日本大会・東京2020年大会を契機とした、障害者スポーツ等の振興

ラグビーワールドカップ2019™日本大会や東京2020大会の会場となる東京スタジアム（味の素スタジアム）及びその周辺施設が立地する地元市として、国や東京都、関係団体等の多様な主体と連携し、市のまちづくりへの多面的な効果を創出していく中で、とりわけパラリンピック開催を契機とした障害者スポーツの振興に取り組みます。また、スポーツボランティアの確保・育成等を通じて、だれもがスポーツに参加できる機会の充実や環境づくりに取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
運動を週に1回以上行っている市民の割合	51.8% (2014(平成26)年度)	62.7% (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	調布市体育協会事業の支援	担当課	スポーツ振興課
事業の概要	調布市体育協会との相互協力により、市における体育・スポーツを振興、市民の健康増進及び体力向上を図ります。		

事業名	オリンピック・パラリンピックを契機としたまちづくりへの多面的効果の創出	担当課	スポーツ振興課	重点4
事業の概要	東京2020大会に向けた様々な取組を通じ、大会後のレガシー創出に取り組みます。			

その他の主な事業

- ・三大スポーツイベントの開催（市民体育祭，市民スポーツまつり，市民駅伝競走大会）

14-3

FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進

◆FC東京との協働のまちづくり

味の素スタジアムを本拠地とするFC東京とのパートナーシップのもと、FC東京のコーチによる子どもサッカー体験教室や指導者講習会、障害児・者を対象としたサッカースクールなどを始めとする様々な事業を通じて、スポーツ振興、青少年の健全育成、市民の健康づくり及び地域振興等のまちづくりをFC東京と連携して推進します。

第3編 分野別計画

◆地域ゆかりのチームや選手を通じたスポーツ振興

F C東京をはじめ、調布市にゆかりのあるプロスポーツチームやスポーツ選手を応援し、スポーツに親しむ機会づくりや交流を促進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
F C東京等と連携したスポーツ事業の参加者数	861人 (2013(平成25)年度)	653人 (2017(平成29)年度)	➔

基本計画事業候補

事業名	プロサッカーチーム等と連携したスポーツ振興等の推進	担当課	スポーツ振興課
事業の概要	プロサッカーチームのF C東京等と連携し、市民スポーツの振興、青少年の健全育成、市民の健康づくり及び地域振興等のまちづくりを協働して推進します。		



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、年齢や体力などに応じ、スポーツに親しむように努めます。
- 事業者は、市民のスポーツ参加機会の充実を支援するとともに、スポーツの振興と地域の活性化に協力します。

《多様な主体との主な連携事例》

連携事例	連携のパートナー
市民スポーツまつり	(公社)調布市体育協会、(公社)調布市体育協会加盟団体、調布市スポーツ推進委員会、東京都多摩障害者スポーツセンター、東京都十一市競輪事業組合、長野県木島平村、味の素スタジアム、味の素(株)、アフラック生命保険(株)等
府中調布三鷹ラグビーフェスティバル	ラグビーフェスティバル実行委員会(府中市、三鷹市、ラグビートップリーグチーム)、調布市ラグビークラブ
F C東京とのパートナーシップに基づく取組	F C東京